

Counseling Room

家庭問題カウンセリングルーム

第159回

公益社団法人 家庭問題情報センター きむら ようすけ
木村 陽介

息子として夫として父親として

Aさん（30代男性）は、別居中の妻から離婚を求められています。外国籍の妻（30代）と娘（8歳）との3人家族でしたが、夫婦喧嘩が絶えず、妻は娘を連れて別居し、1年が経過しています。Aさんは離婚問題について悩み、相談にられました。

カ（カウンセラー） 離婚についてのご相談とうかがいましたが。

A はい。妻が娘を連れて家を出てから、1年が過ぎました。もともと同居していた頃から、夫婦喧嘩ばかりでしたので、このまま夫婦としてやっていくのは難しいかなという思いはありました。別居してからずっと、妻から離婚してほしいと言われていて、私も離婚はやむを得ないと考えるようになりましたが、娘のことがあって……。妻とは離婚するとしても、娘は私が親権者となって引き取りたいと考えています。ただ、妻も娘は絶対に手放さない

と言っていて、話し合いがそれ以上進まないのです。

カ ご夫婦が離婚すること自体は合意しているけれど、娘さんの引取りについて、意見が食い違っているんですね。

A そうです。

カ 別居してから、娘さんとの親子の交流はありますか。

A それはあります。今でも定期的に娘と会うことはできています。

カ 娘さんの様子はいかがですか。

A 特に変わりはありません。小学校にも元気に通っているようですし、娘の生活面で心配なところはないのです。

もともと妻は世話好きで、子育てはしっかりやっているといます。

ただ、私も、娘のことは本当に可愛いですし、できる限り子育てには協力してきた自負もあります。それに、外国籍の妻だけでは、日本の文化や生活の機微まで教えられない気がしますし、娘が成長してから引き取ったとしても、新しい生活になじめない心配があります。だから、今のうちに引き取りたいのです。

カ 先ほど、奥さんとの離婚はやむを得ない、同居していた頃から夫婦喧嘩ばかりとおっしゃっていましたが、どん

なときに夫婦喧嘩になっていたのですか。

A もともと妻は面倒見が良くて、そこに惹かれて結婚しました。でも、結婚後は、面倒見が良い反面、何でも自分の思いどおりにならないと気が済まない所がだんだん目立ってきました。日常生活の何でも、妻の言うとおりにしないと満足しないのです。

大げさかもしれませんが、まるで奴隷のような生活で、自分の人生は一体何なのだろうと思うようになりました。

そんなことから、ささいなことをきっかけに、妻に言い返したところ、更に言い合いになってしまい、夫婦喧嘩が絶えなくなっていました。優しい女性だと思っていたのですが……。

カ 優しくて面倒見の良い女性と違って、結婚相手に選んだんですね。

A 実家の両親を見ていて……。

カ いろんなご両親ですか。

A 母は離婚歴があって、父とは再婚だったと聞いています。母はとにかくわがままな人で、父はずっと我慢して生活しているように私からは見えまし

た。私自身も子どもの頃から、母にあれこれと指図され、母の言うとおりにしなければならぬという窮屈な思いをしていました。就職してからも、ずっと実家から通勤していました。妻と知り合い、付き合うようになりましたが、妻が外国籍であったため、母は結婚に強く反対していました。でも、父が賛成してくれたので、母の反対を押し切り、実家を出る形で結婚したのです。

ところが、そのことで、母が父を責め立てるようになり、父はそれを苦しめたのか体調を崩し、急死してしまいました。母からは「お前たちのせいでお父さんが亡くなった」と責められ、父に対しては本当に申し訳ない思いでいっぱいになりました。

一方では、逆に母のせいで、こうなってしまったのではないかとも思い、複雑でした……。それ以来、母とは疎遠になっています。

カ いろいろなことがあったのですね……。改めて、今までのことを振り返ってみて、奥さんに対してどんな思いが湧き上がってきますか？

A ……押さえ付けられていたというか……。何だか、母に対する思いと似ていますね。……ずっと母に押さえ付けられていた思いがあって、妻に心の支えになってもらいたかったけれど、そうはならなくて……。

カ お母さんに押さえ付けられていた思いがあって、そこから独り立ちするのにな、奥さんに心の支えになってもらいたかった。でも、今度は、奥さんに押さえ付けられている思いがある……。

A もしかしたら、今度は、娘を心の支えとしているのかもしれない……。どうするのが娘にとって一番良いのか、もう一度良く考えてみます。

……

Aさんは、妻に対する思い、母親に対する思い、娘さんに対する思いをカウンセラーに語りながら、一つずつ気持ちを整理していったようです。その上で、Aさんが娘さんにとってより望ましい現実選択をすることを願いつつ送り出しました。

